



東京証券取引所スタンダード  
証券コード 7808

# 株式会社シー・エス・ランバー

## 2025年5月期 第2四半期決算説明会

2025年1月27日開催



※写真は株式会社シー・エス・ホーム施工  
2024年度グッドデザイン賞／千葉市都市文化賞2024グランプリ 受賞

1. 当社の概要
2. 2025年5月期 第2四半期決算概要
3. 2025年5月期 業績予想
4. 中期経営計画2025進捗状況
5. 参考資料



## Customer Satisfaction through Lumber

木材を通じて顧客に満足戴ける取引に徹する

会社名	株式会社シー・エス・ランバー
本社所在地	千葉県千葉市花見川区幕張本郷一丁目16番3号
代表者	代表取締役社長 中井 千代助
設立	1983年4月1日
資本金	536百万円
事業内容	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. プレカット事業 <ul style="list-style-type: none"> <li>● 在来軸組工法における設計、木材のプレカット加工及び販売</li> <li>● ツーバイフォー工法における設計、木材のプレカット加工、パネルの製造及び販売</li> </ul> </li> <li>2. 建築請負事業 <ul style="list-style-type: none"> <li>● 木造住宅・大型木造施設の建築請負</li> </ul> </li> <li>3. 不動産賃貸事業 <ul style="list-style-type: none"> <li>● 不動産賃貸・管理</li> </ul> </li> <li>4. その他事業 <ul style="list-style-type: none"> <li>● 不動産の販売</li> </ul> </li> </ol>
従業員数	連結 328名 他に臨時従業員 108名

(2024年11月末現在)

木材を熟知する材木店から、木造建築のトータルサービス企業へ



1. 当社の概要
2. 2025年5月期 第2四半期決算概要
3. 2025年5月期 業績予想
4. 中期経営計画2025進捗状況
5. 参考資料

# 2025年5月期 第2四半期決算概要



プレカット事業は、ウッドショック終息以降、木材価格の下落傾向が続いていることに加え、新設住宅着工戸数の減少等により競合先との受注競争が激しくなっており、減収減益。

単位：百万円	2024年5月期 第2四半期		2025年5月期 第2四半期			
	実績		実績		前年同期比	
	金額	構成比	金額	構成比	増減額	増減率
売上高	10,866	100.0%	9,852	100.0%	△1,013	△9.3%
プレカット	8,805	81.0%	7,539	76.5%	△1,265	△14.4%
建築請負	1,997	18.4%	2,159	21.9%	161	8.1%
不動産賃貸	450	4.1%	544	5.5%	93	20.8%
その他	233	2.1%	148	1.5%	△84	△36.3%
粗利益	2,530	23.3%	2,127	21.6%	△403	△15.9%
プレカット	1,976	18.2%	1,566	15.9%	△409	△20.7%
建築請負	249	2.3%	240	2.4%	△9	△3.6%
不動産賃貸	275	2.5%	291	3.0%	15	5.8%
その他	26	0.2%	16	0.2%	△10	△37.4%
販売費及び一般管理費	1,238	11.4%	1,268	12.9%	30	2.5%
営業利益（セグメント利益）	1,292	11.9%	859	8.7%	△433	△33.5%
プレカット	841	7.7%	413	4.2%	△427	△50.8%
建築請負	131	1.2%	112	1.1%	△19	△14.5%
不動産賃貸	272	2.5%	288	2.9%	15	5.7%
その他	3	0.0%	△9	△0.1%	△13	-
経常利益	1,251	11.5%	816	8.3%	△435	△34.8%
親会社株主に帰属する中間純利益	855	7.9%	567	5.8%	△287	△33.7%

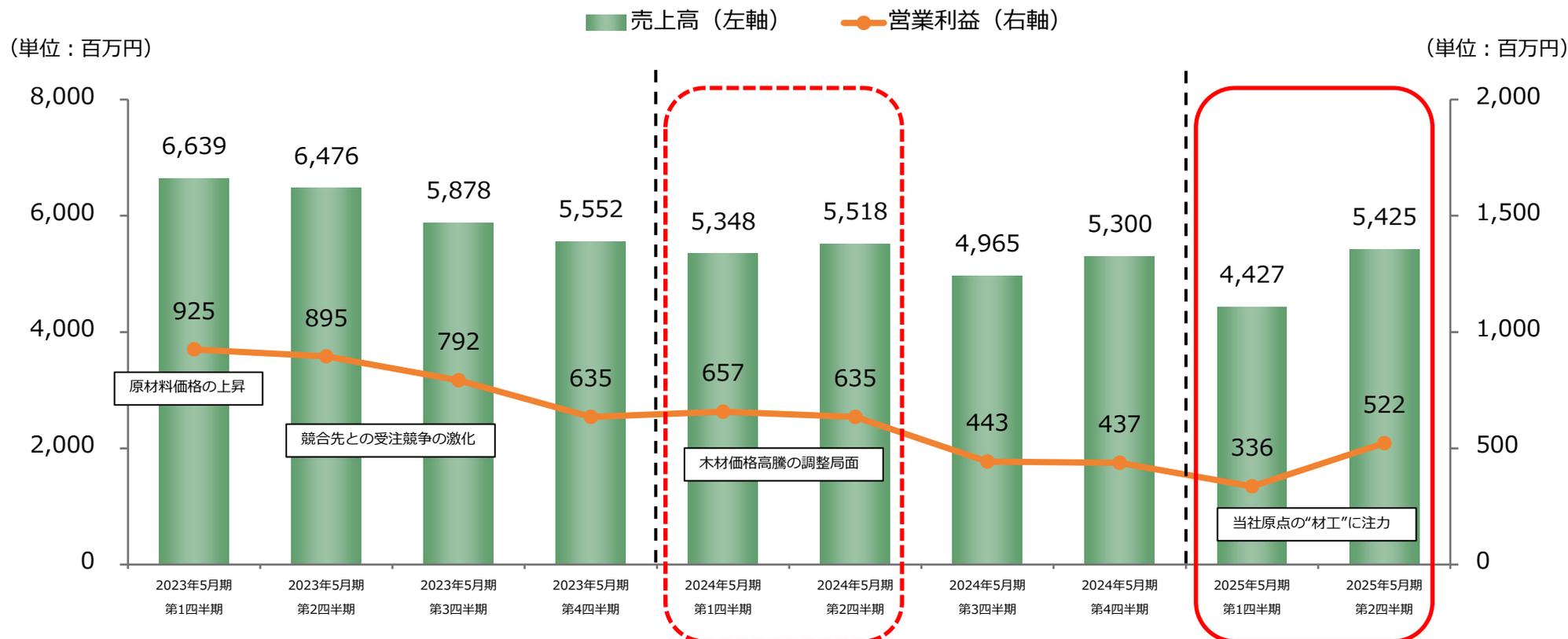
※その他事業には、不動産販売事業を区分しております。 Copyright© C.S LUMBER CO.,INC. All Rights Reserved

※セグメント調整額を除いております。

# 2025年5月期 第2四半期業績推移



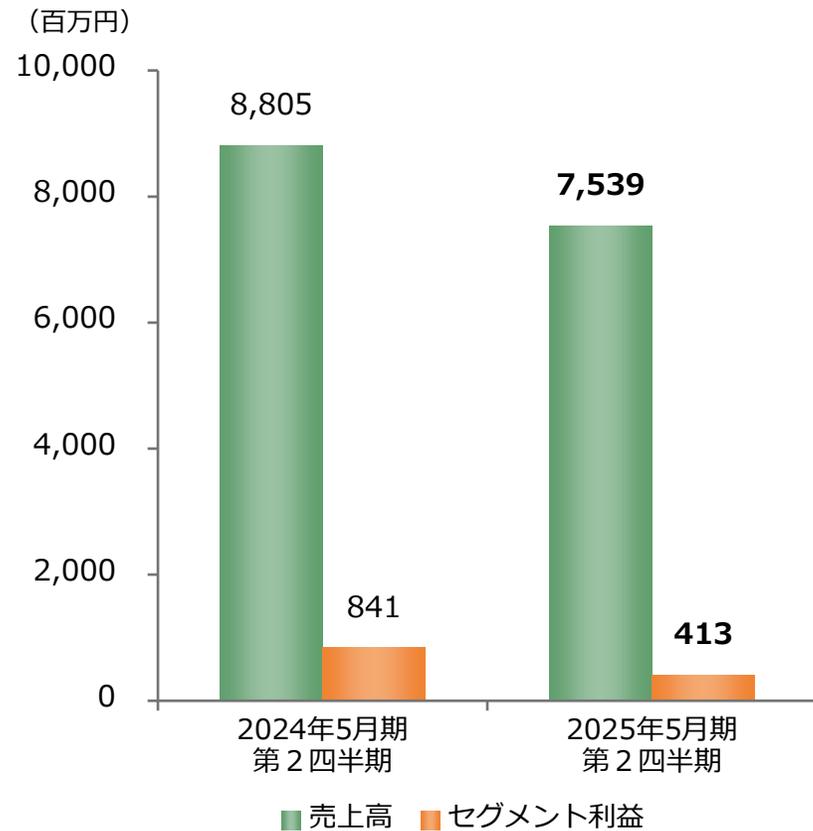
1棟当りの利益率へのこだわりを持った行動や、原点に戻った“材工”での営業展開による利益率改善。サイディングプレカットの本格稼働への準備を推進。



- ・ ウッドショックの終息による状況の正常化
- ・ 原材料価格やエネルギー価格・物流コストの上昇
- ・ 新設住宅着工戸数の減少などによる、競合先との受注競争の激化

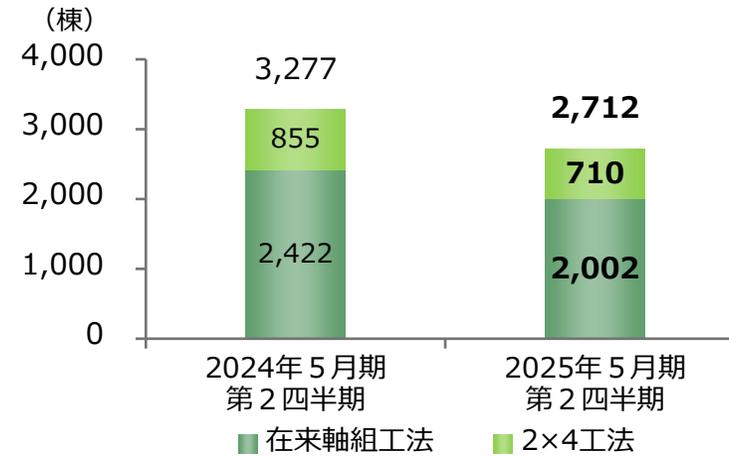
1 棟当りの利益率へのこだわりを持った行動、当社グループ原点の“材工”での営業展開推進で利益率改善基調。

## 売上高・セグメント利益

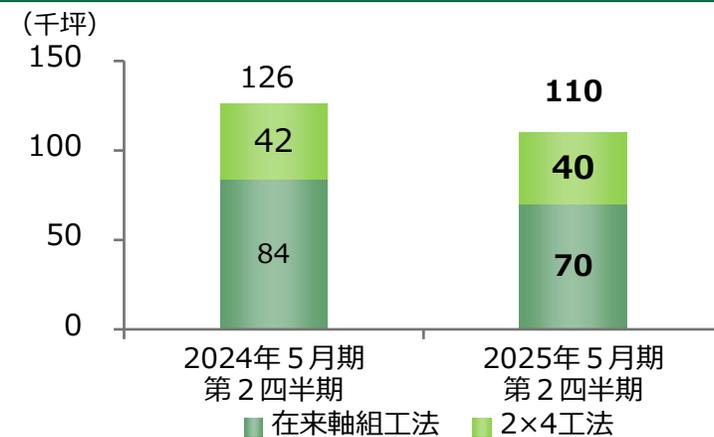


受注競争が激化する中、材工による営業活動に注力

## 出荷棟数



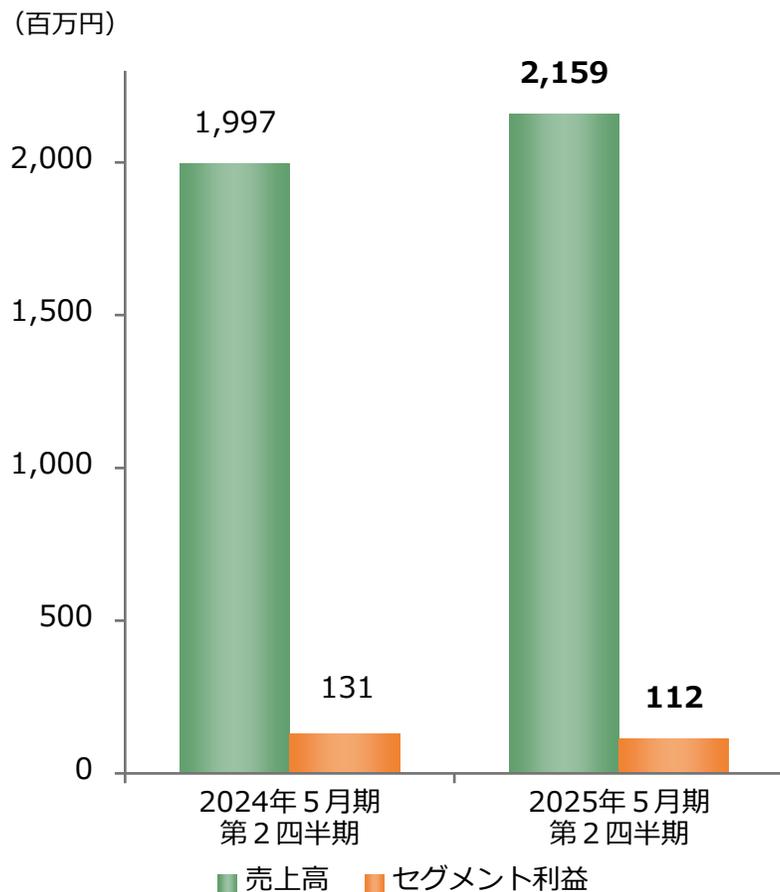
## 出荷坪数



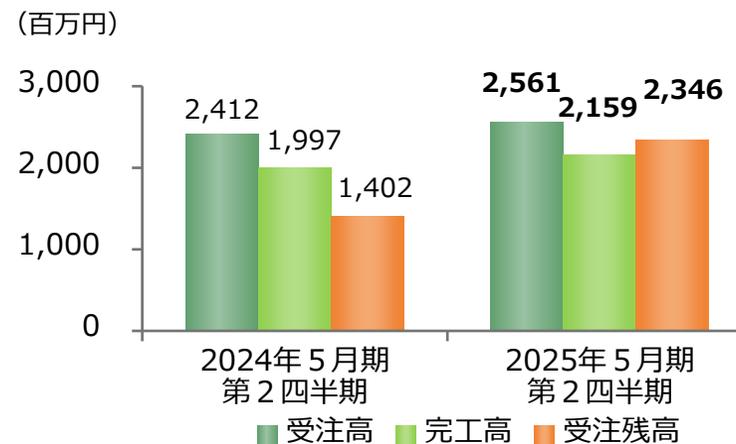


木造大型福祉施設など非住宅の木造木質化の需要が増加。

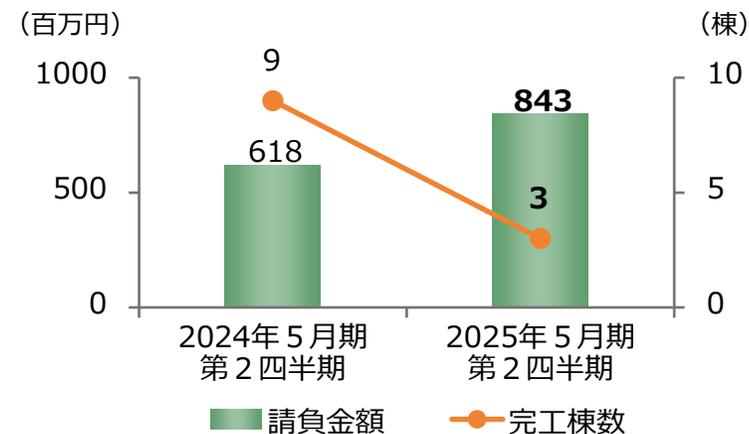
## 売上高・セグメント利益



## 受注・完工・受注残



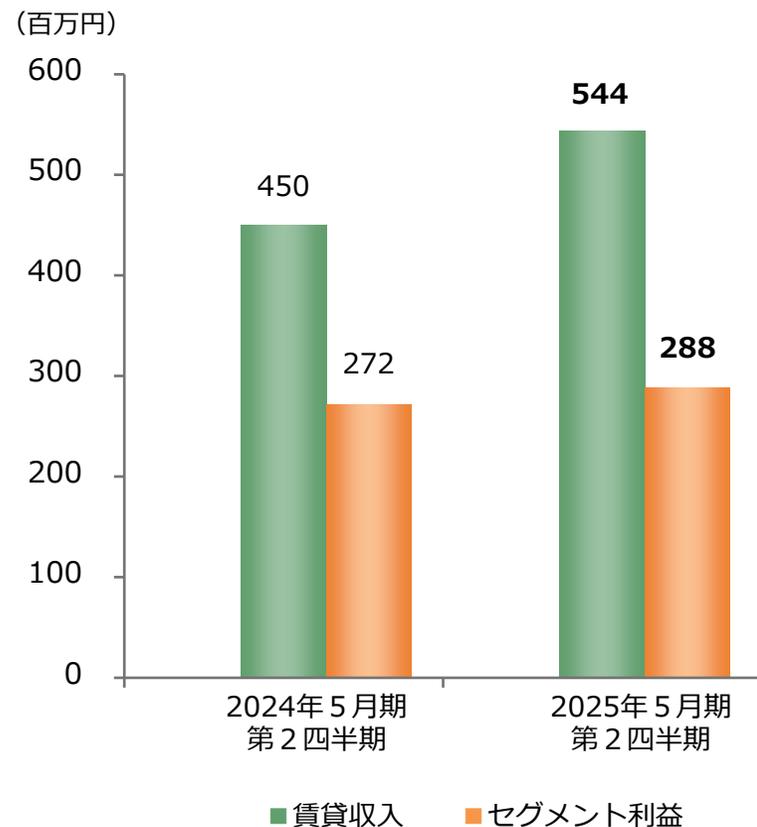
## 大型(50坪以上)木造住宅・施設





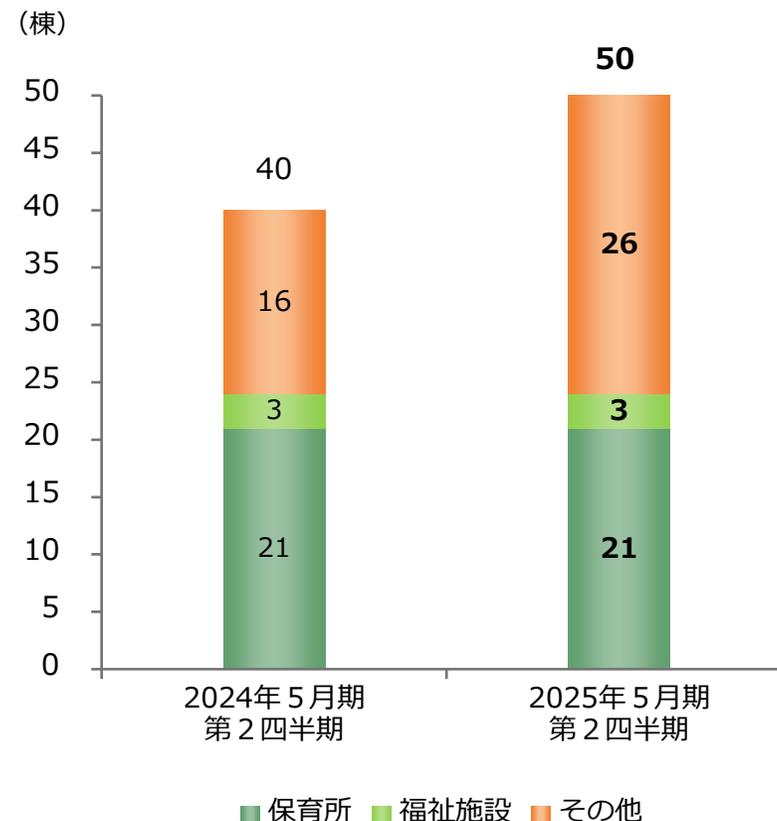
前年同期より賃貸物件を新たに10件取得し、安定した賃料収入を確保。

## 売上高・セグメント利益



賃貸収入・礼金収入の推移については38ページをご参照ください

## 賃貸及び管理棟数

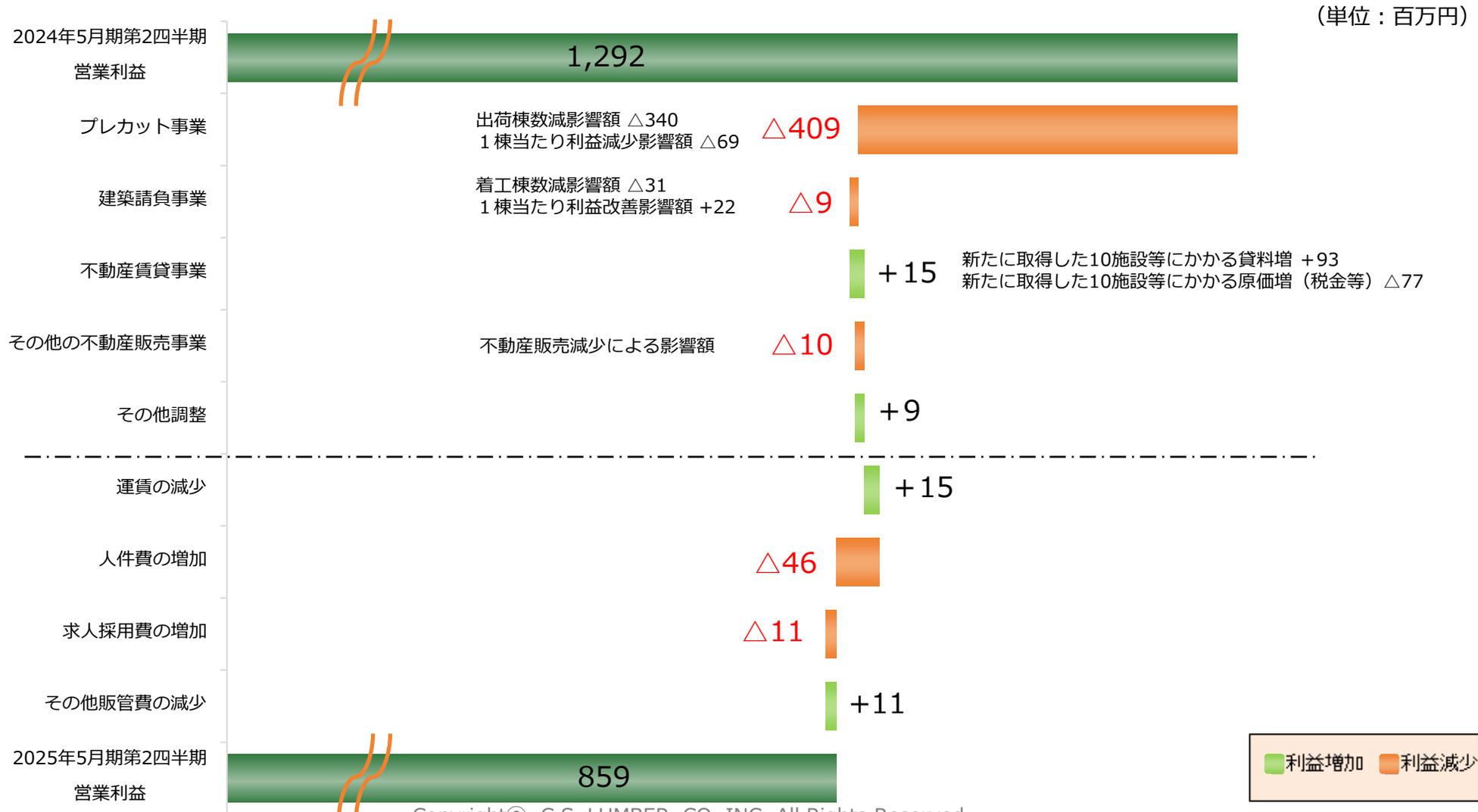


保育所21物件 福祉施設等29物件から安定した賃貸収入

# 2025年5月期 第2四半期 営業利益の増減（前年同期比）



新設住宅着工戸数の減少影響と受注競争激化により出荷棟数減少。建築請負事業における収益性向上や不動産賃貸事業における賃料増があったものの、出荷棟数や着工数の減少影響を補えず営業利益減少。



# 2025年5月期 第2四半期 貸借対照表



総資産増加の要因は、賃貸不動産取得に伴う有形固定資産が増加したことによるもの。

単位：百万円	2024年5月期		2025年5月期 第2四半期			
	実績		実績		前期末比	
	金額	構成比	金額	構成比	増減額	増減率
流動資産	9,781	41.6%	<b>10,451</b>	<b>40.4%</b>	669	6.8%
現金及び預金	5,156	21.9%	<b>5,707</b>	<b>22.1%</b>	551	10.7%
受取手形、 売掛金及び契約資産	3,063	13.0%	<b>3,370</b>	<b>13.0%</b>	306	10.0%
商品及び製品	127	0.5%	<b>91</b>	<b>0.4%</b>	△35	△28.0%
販売用不動産	529	2.2%	<b>416</b>	<b>1.6%</b>	△112	△21.3%
仕掛品	312	1.3%	<b>323</b>	<b>1.2%</b>	10	3.3%
原材料及び貯蔵品	518	2.2%	<b>507</b>	<b>2.0%</b>	△10	△2.1%
その他	73	0.3%	<b>34</b>	<b>0.1%</b>	△38	△52.9%
固定資産	13,750	58.4%	<b>15,432</b>	<b>59.6%</b>	1,682	12.2%
有形固定資産	12,975	55.1%	<b>14,648</b>	<b>56.6%</b>	<b>1,672</b>	12.9%
無形固定資産	101	0.4%	<b>105</b>	<b>0.4%</b>	4	4.5%
投資その他の資産	673	2.9%	<b>678</b>	<b>2.6%</b>	5	0.8%
資産合計	23,532	100.0%	<b>25,884</b>	<b>100.0%</b>	2,352	10.0%

単位：百万円	2024年5月期		2025年5月期 第2四半期			
	実績		実績		前期末比	
	金額	構成比	金額	構成比	増減額	増減率
流動負債	8,085	34.4%	<b>8,981</b>	<b>34.7%</b>	896	11.1%
支払手形及び買掛金	3,285	14.0%	<b>3,652</b>	<b>14.1%</b>	367	11.2%
短期借入金	2,818	12.0%	<b>3,054</b>	<b>11.8%</b>	236	8.4%
1年以内返済予定の 長期借入金	471	2.0%	<b>646</b>	<b>2.5%</b>	175	37.1%
リース債務	73	0.3%	<b>68</b>	<b>0.3%</b>	△4	△6.5%
未払法人税等	231	1.0%	<b>256</b>	<b>1.0%</b>	25	11.2%
その他	1,205	5.1%	<b>1,301</b>	<b>5.0%</b>	96	8.0%
固定負債	5,159	21.9%	<b>6,189</b>	<b>23.9%</b>	1,029	20.0%
社債	580	2.5%	<b>440</b>	<b>1.7%</b>	△140	△24.1%
長期借入金	3,983	16.9%	<b>5,184</b>	<b>20.0%</b>	<b>1,201</b>	30.2%
リース債務	119	0.5%	<b>87</b>	<b>0.3%</b>	△32	△27.0%
その他	477	2.0%	<b>477</b>	<b>1.8%</b>	0	0.1%
負債合計	13,244	56.3%	<b>15,171</b>	<b>58.6%</b>	1,926	14.5%
株主資本合計	10,167	43.2%	<b>10,586</b>	<b>40.9%</b>	419	4.1%
純資産合計	10,287	43.7%	<b>10,713</b>	<b>41.4%</b>	425	4.1%
負債純資産合計	23,532	100.0%	<b>25,884</b>	<b>100.0%</b>	2,352	10.0%

投資活動によるキャッシュ・フローは、賃貸不動産取得により減少。

単位：百万円	2024年5月期第2四半期実績	2025年5月期第2四半期実績
営業活動によるキャッシュ・フロー	1,211	<b>1,146</b>
投資活動によるキャッシュ・フロー	△721	<b>△1,891</b>
財務活動によるキャッシュ・フロー	31	<b>1,289</b>
現金及び現金同等物の増減額	523	<b>540</b>
現金及び現金同等物の期首残高	5,388	<b>5,122</b>
現金及び現金同等物の中間期末残高	5,912	<b>5,663</b>

単位：百万円	2024年5月期第2四半期実績	2025年5月期第2四半期実績
税金等調整前中間純利益	1,251	<b>817</b>
減価償却費	214	<b>204</b>
運転資本の増減額	41	<b>209</b>
未払消費税等の増減額	32	<b>△12</b>
法人税等の支払額	△313	<b>△219</b>

1. 当社の概要
2. 2025年5月期 第2四半期決算概要
3. 2025年5月期 業績予想
4. 中期経営計画2025進捗状況
5. 参考資料

新設住宅着工戸数の伸び悩み、木材価格の下落、受注競争の激化が継続していくと予想。  
 “材工”による提案を強化し、受注増加に注力。

	2024年5月期 実績	2025年5月期 期初業績予想	2025年5月期 修正業績予想	前期比
売上高	211億円	230億円	200億円	94.6%
経常利益	21億円	21億円	19億円	91.2%
経常利益率	9.9%	9.3%	9.5%	—
純利益	14.3億円	14.8億円	13.0億円	90.5%

※2024年10月15日「連結業績予想の修正に関するお知らせ」を公表しております

## 2025年5月期 重点施策

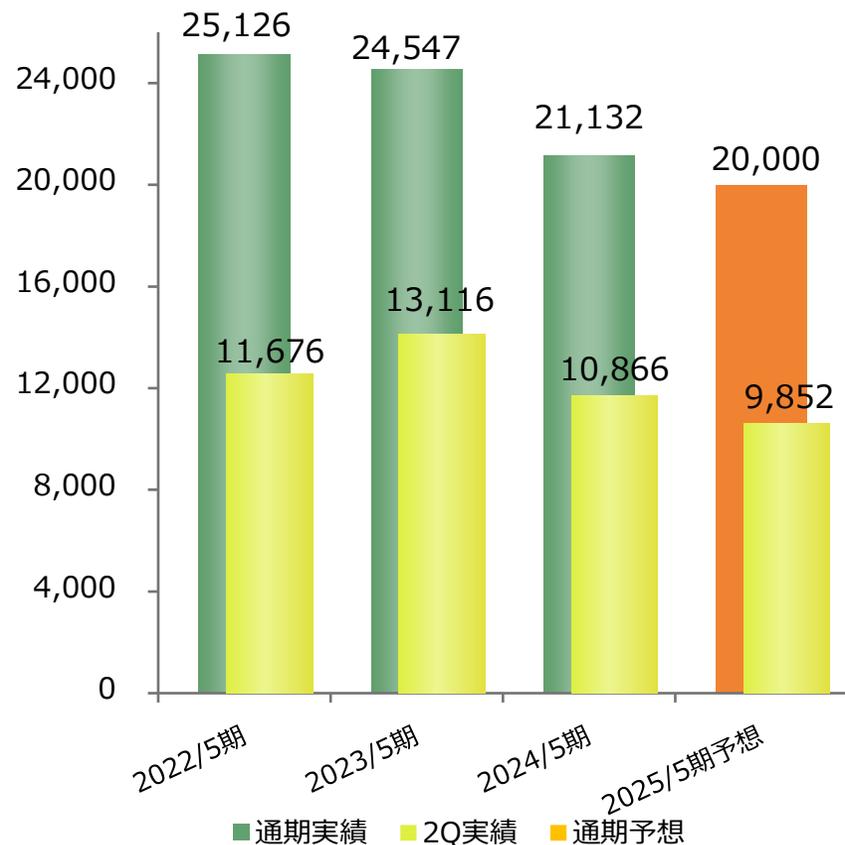
- ✓ 物流2024年問題への対応：積載可能重量を載せきる工夫、積み込みとドライバーの業務切り分け
- ✓ 歩留り向上：仕入の工夫、徹底した端材の有効活用、樹種提案力強化
- ✓ 材工一括受注の提案強化：大工職人（建て方／内装）の紹介を通じた受注強化



2025年5月期は、売上高は前期比94.6%、営業利益は同92.0%と予想。

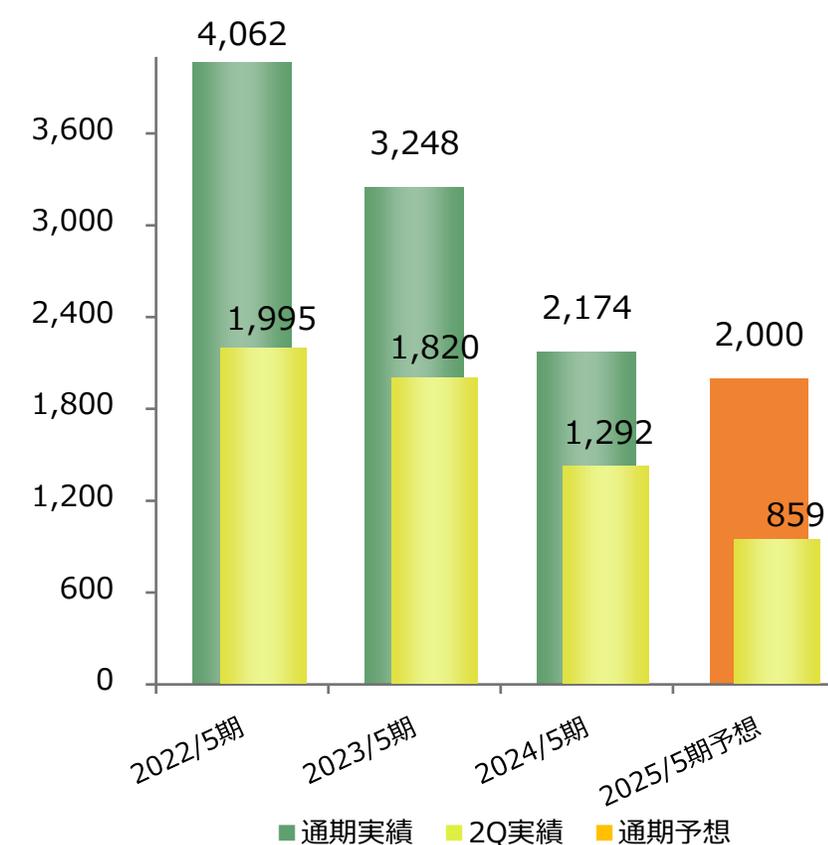
## 売上高

(単位：百万円)



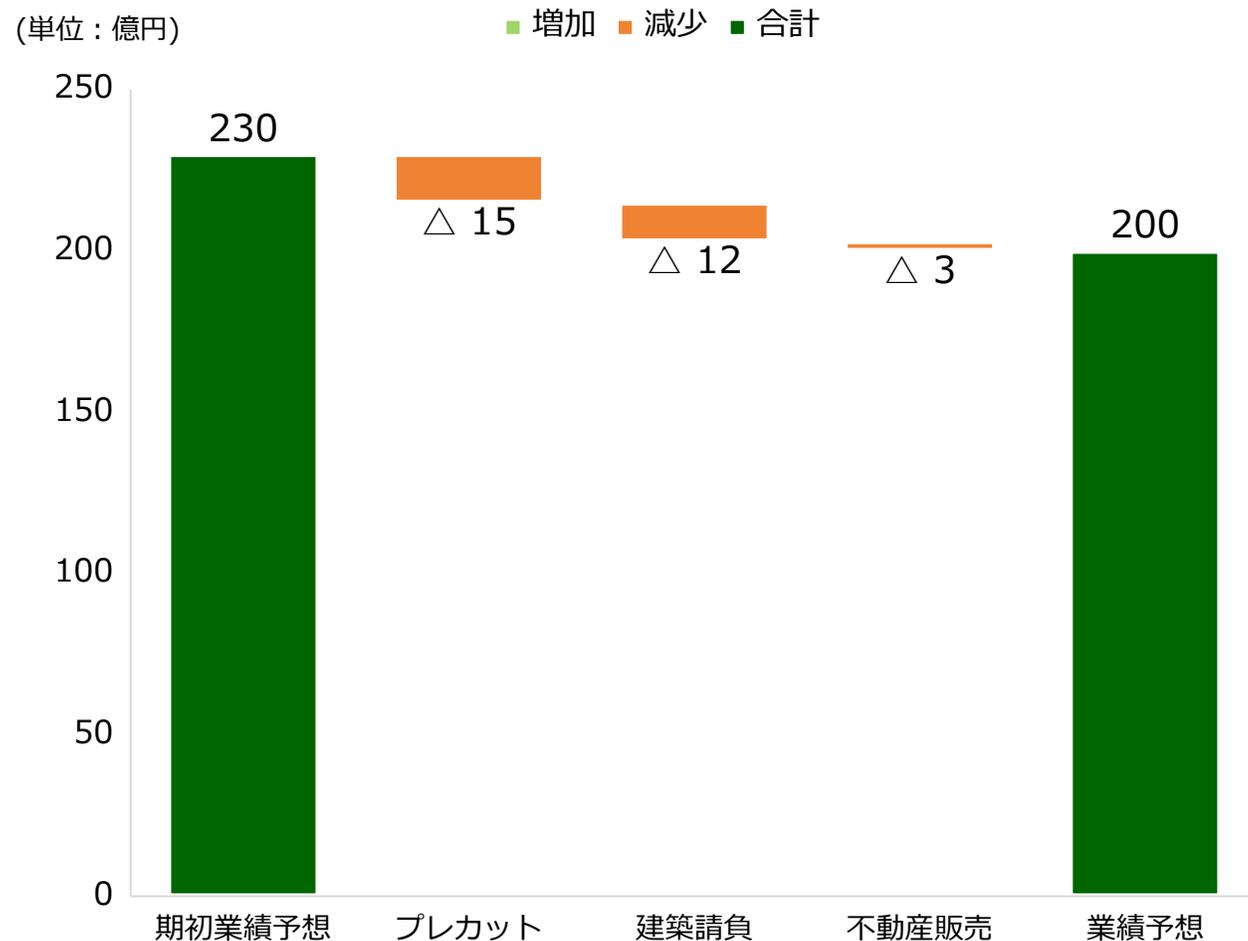
## 営業利益

(単位：百万円)



※2024年10月15日「連結業績予想の修正に関するお知らせ」を公表しております

2025年5月期の期初売上予想と修正後売上予想の差について。



※2024年10月15日「連結業績予想の修正に関するお知らせ」を公表しております

期初に掲げた売上目標230億円に対し、2025年5月期売上予想を200億円と修正発表しております。

主なマイナス要因は下記の通りです。

- ・ 新設住宅着工戸数の伸びの見込み相違
- ・ 木材価格の想定以上の下落
- ・ 上記2点が相まった競合他社との競争の激化
- ・ 建築請負事業の戸建受注の減少

プレカット事業は、営業体制の見直しにより、落ち込んだ出荷棟数の回復。

建築請負事業は、東京都城南・城西地区、神奈川県へのエリア拡大、非住宅案件の拡大により実績の積み上げ。

その他の不動産販売事業は、地場の仲介会社と連携し、セグメント利益の赤字を回避。

(単位：百万円)	売上高	前期比	セグメント利益	前期比
プレカット	15,050	91.9%	1,204	93.8%
建築請負	5,310	120.5%	318	105.3%
不動産賃貸	1,062	115.8%	548	114.3%
その他	348	59.9%	5	20%

# 2025年5月期 業績予想



プレカット事業	2025年5月期	前期比
プレカット棟数	5,950棟	96.1%
プレカット坪数	226千坪	95.4%
トラック保有台数	22台	104.7%
建て方棟数	760棟	129.0%

建築請負事業	2025年5月期	前期比
建築完工	200棟	105.8%
大型木造施設	12棟	66.7%

不動産賃貸事業	2025年5月期	前期比
保育所賃貸数	21物件	100.0%
福祉施設・ アパート等賃貸数	33物件	126.9%

不動産販売事業	2025年5月期	前期比
販売区画数	13区画	59.1%

2025年5月期の配当は80円を予想。

## 配当政策の基本方針

将来の事業展開と経営体質強化  
に必要な**内部留保の強化**

継続性・安定性

経営成績に応じた  
配当の実施

### <内部留保強化の必要性>

安定した経営基盤の確立、持続的成長、長期的な企業価値向上

- (施策) ・財務基盤強化のための借入金の返済
- ・プレカット製品の安定供給を可能にするための将来の投資

## 配当金額

2023年5月期 1株当たり年間配当金 (実績) : 80円 (期末80円)

2024年5月期 1株当たり年間配当金 (実績) : 80円 (期末80円)

2025年5月期 1株当たり年間配当金 (予想) : 80円 (期末80円)

1. 当社の概要
2. 2024年5月期 決算概要
3. 2025年5月期 業績予想
4. **中期経営計画2025進捗状況**
5. 参考資料

社是・経営理念

**Customer Satisfaction through Lumber** 木材を通じて顧客に満足戴ける取引に徹する

- 一、我社は、木造住宅資材の販売流通を通して社会に貢献する。
- 二、我社は、顧客満足と会社の繁栄、社員の幸福を一致させる。
- 三、我社は、数値に基づく行動と現場主義の徹底を行動原理とする。

目指す将来像

創業50周年(2032年)を迎えるシー・エス・ランバーグループの目指す将来像

中期経営計画  
2025

- ▶過去最高益にある40期の業績の維持を図るため、目指す将来像へ向けて、各事業の収益基盤を強化する。
- ▶借入金返済を推進し、財務基盤を強化する。

高品質なプレカット製品の提供を  
通じた顧客満足の追求



安定的な収益源を創り  
ながら創意工夫を通じて進化

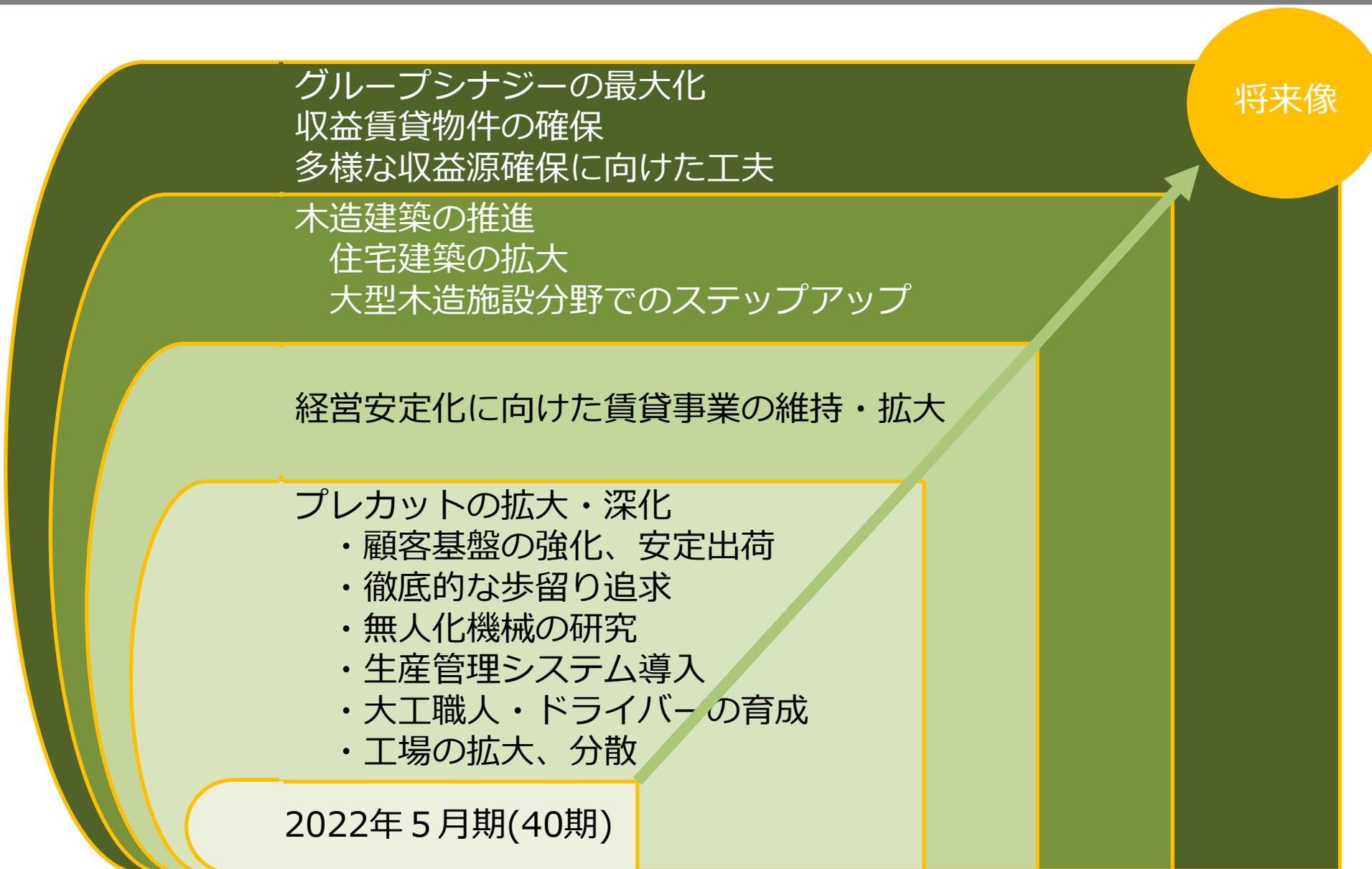


中期経営計画2022で  
高めたプレカットの  
マネジメント力を他事業に展開



プレカット事業を基盤としつつも、  
プレカット事業の枠にとらわれること  
なく創意工夫で多様な収益源を創りなが  
ら、事業の拡大、成長を続ける企業集団  
を目指す。

- 基盤となるプレカット事業では、
- ▶ 1工場の取得、物流の合理化による  
収益力をアップ
  - ▶ 工場の無人化に挑戦





木材価格がウッドショック時の高騰からピークアウトし、新設住宅着工戸数・1棟当単価が想定を下回って推移している現状から、VISION2032の最初の中期経営計画2025は、当初経営目標を下回る業績予想となっております。

	2022年5月期 実績	2023年5月期 実績	2024年5月期 実績	2025年5月期 期初予想	2025年5月期 修正予想
売上	251億円	245億円	211億円	230億円	<b>200億円</b>
経常利益	40億円	31億円	20億円	21.5億円	<b>19億円</b>
経常利益率	15.9%	13.0%	9.8%	9.3%	<b>9.5%</b>
純利益	27億円	22億円	14億円	14.8億円	<b>13億円</b>

※2024年10月15日「連結業績予想の修正に関するお知らせ」を公表しております

## 経営目標に対する進捗状況

### ✓事業環境について

金利上昇懸念、資材高、実質賃金の低下等で新設住宅着工戸数が減少傾向の中、競合との競争激化によるプレカット提供価格の下落基調が益々強くなっています。木材の市場価格は下げ止まりが見られ、春先以降に木材価格が上がっていくと予想しておりますが、需要の盛り上がり懸念があります。

### ✓お取引先状況について

建築・物流業界の労働時間の制約から工期の長期化が予想されます。円安、物流費の上昇、人件費の上昇、住宅設備機器の値上がりなど、消費者の住宅購入意欲が低下し新設住宅着工戸数は伸び悩む見通しです。

### ✓事業戦略の取り組み状況について

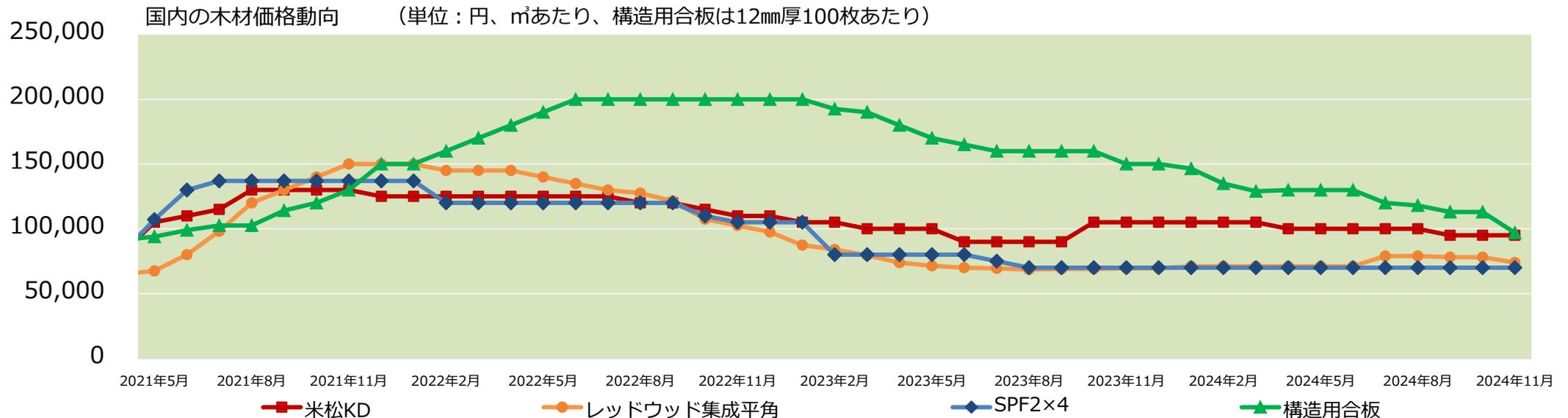
プレカットの提供価格の下落をカバーしていくため、サイディングのプレカットに参入し、建材事業の再構築を行います。採算性を意識したプレカット受注獲得、建築請負事業の非住宅分野の拡大、歩留りの追究、配送の効率化を進めています。

※サイディングプレカット：サイディング（外壁）材をあらかじめ工場加工することで現場での作業がスムーズになり、粉塵、騒音がなく現場環境を快適に保ち、懸念されている職人不足・工期短縮にも貢献できます。

## 新設住宅着工戸数と出荷棟数シェア。

	住宅着工戸数 (全国)	前年比	住宅着工戸数 (一都三県)	前年比	出荷棟数	一都三県 シェア	全国 シェア
2021年5月期	823,456	95.2%	288,183	97.5%	6,229	2.16%	0.76%
2022年5月期	864,728	105.0%	296,271	102.8%	6,647	2.24%	0.77%
2023年5月期	854,121	98.8%	303,434	102.4%	6,579	2.17%	0.77%
2024年5月期	805,830	94.3%	287,716	92.8%	6,194	2.15%	0.77%
2025年5月期 (6月～11月)	404,372	97.1%	144,735	100.5%	2,712	1.87%	0.67%

※ 6か月集計



出所：日刊木材新聞より当社作成



	2023年5月期	2024年5月期	2025年5月期 計画		2025年5月期 経営目標
プレカット棟数	6,579棟	6,194棟	5,950棟	↓ 新設住宅着工戸数の減少、競争激化により計画未達の見通しだが、適性利益を確保していくことに重点を置き、様々な提案を実施	7,200棟
プレカット坪数	246千坪	237千坪	226千坪	↓ 増トン車の導入により、2台分に相当	277千坪
トラック保有台数	21台	21台	22台	↓ 体制立て直し、着実に信頼を勝ち取る	23台
建て方棟数	615棟	589棟	760棟	↓ 品質を高め、取引先、エンドユーザーの満足度を高める	1,000棟
建築完工	168物件	189物件	200物件	↓ 物件数未達も、大型施設1,000坪超の確実な完工で実績を積む	250物件
大型木造施設	7物件	18物件	12物件	↓ 待機児童の解消があり、募集案件がないため、他の収益物件へ投資	25物件
保育所賃貸数	21物件	21物件	21物件	↑ 経営の安定化と将来の分譲候補地として積極的に投資	25物件
福祉施設・ アパート等賃貸数	16物件	26物件	33物件	↓ 販売ノウハウの蓄積、仲介企業との連携強化	24物件
不動産販売区画	26区画	22区画	13区画		80区画 (不動産販売 : 3年間累計)

特に賃貸物件へ積極的に投資。次世代経営幹部向け研修の継続。基幹システム刷新に向け構築中。

不動産投資 56億円

6,156<sub>百万円</sub>

賃貸物件の購入

579<sub>百万円</sub>

販売用不動産の購入

人材育成・採用 7億円

289<sub>百万円</sub>

次世代経営幹部候補 研修／採用  
大工職人育成（実習生）

I T ・ D X 推進 ・ その他 5億円

91<sub>百万円</sub>

建築工程管理の効率化  
基幹システム刷新に向けた業務整理  
その他

安定収益の確保、賃貸物件への投資と返済をバランスよく実施し、財務体質を強化。

財務体質の改善 2032年

有利子負債 25億円未満

2022年6月 – 2025年5月期第2四半期 返済額 8,453百万円

残 9,606百万円

※リース債務を除く

既存不動産の賃料収入（見込）

年間賃貸収入 1,124百万円

既存保育所 年間賃貸収入 538百万円

その他不動産 年間賃貸収入 586百万円

シー・エス・ランバークループで材工一括の流れを創出し、職人不足に対応。

- ・大工職人不足により、住宅着工遅れが発生している状況。
- ・当社グループ主導で、プレカット製品と建て方職人の手配を担うことで、工期厳守、品質向上。

## プレカット製品の販売

### 自社プレカット製品の取扱量増加

- ・自社プレカット取扱量が増加し、売上高の拡大を図る。
- ・取扱量増加に伴い、製造・輸送コストの削減、採算性の改善。
- ・職人不足による取引逸失機会の防止。
- ・工期厳守、住宅品質の向上。



### プレカット製品の取り扱い種類増加

- ・サイディングプレカット事業に新規参入。  
※サイディングプレカットについては次スライドで紹介

材工一括の流れを創出

## 住宅着工

### 大工職人の育成・人手不足解消

- ・プレカット製品を使用することで、建築現場での作業を簡略化し、労働力の削減と工期を短縮。
- ・業務フローの削減により、ベテラン大工職人の減少に対応。
- ・プレカット製品の製造を通じ、若手大工職人を育成。
- ・大工職人への安定した現場案件の供給を実現。



### ハウスメーカー案件の自社対応範囲の拡大

- ・建築作業の大半をCSLグループで担うことで、取引先の手間を引き受け、取扱件数の増加を図る。
- ・自社対応範囲の拡大による業務効率化を通じ、採算性の改善を図る。

2025年2月よりサイディングプレカット事業に参入し、建材の販売拡大に注力。

- ・サイディング材をあらかじめ工場で加工することで、現場での作業を効率化。【工期・天候に左右されず、生産計画が立てやすい】
- ・粉塵も出ないため現場環境を快適に保ち、懸念されている職人不足にも対応。【クリーン・エコ、安心・安全、高品質】
- ・外壁工事につきものだった「粉塵」「騒音」「廃材」の問題を解決する環境と人にやさしい工法。【廃材置き場のスペース削減】

## 【特徴】

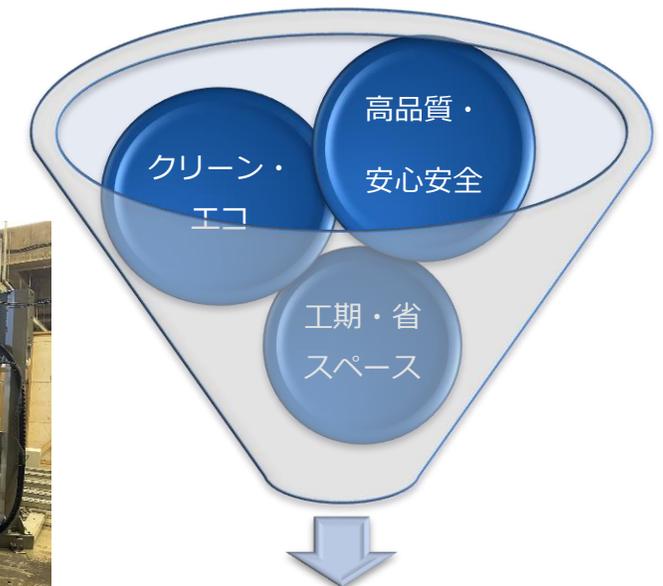
- ・サイディングプレカットを手掛ける会社は首都圏20社以上。
- ・業務フローの削減により、ベテラン職人の減少に対応可能。
- ・工場加工することにより住宅建築現場から出るゴミの量を減らすことが可能。

## 【市場規模】

- ・サイディングの市場規模は約3,600億円超。

## 【当面のターゲット】

- ・取引のある会社から順次展開し、300棟/月を計画。
- ・サイディング加工機 4台まで増台（1台設置済）。



サイディングプレカット

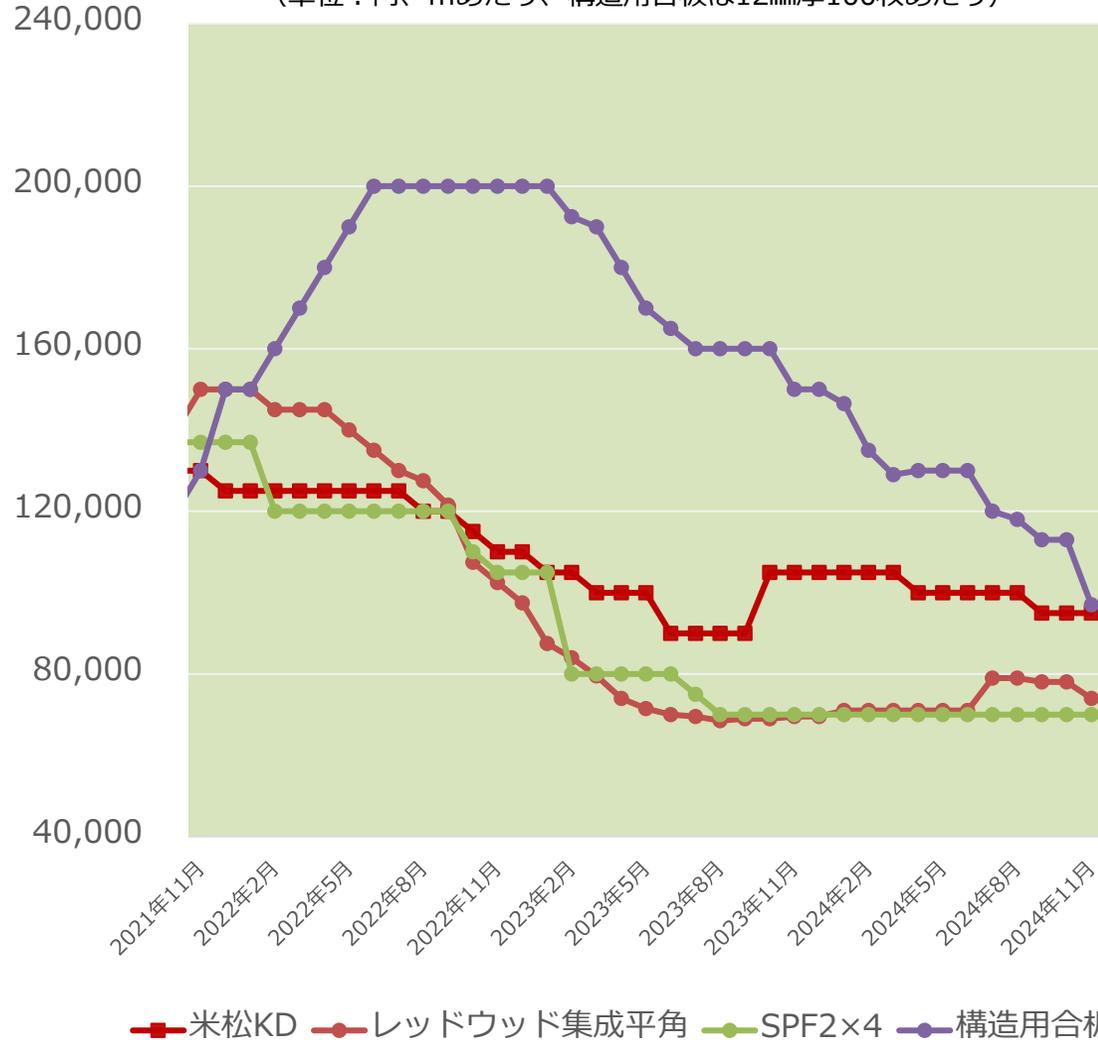
1. 当社の概要
2. 2024年5月期 決算概要
3. 2025年5月期 業績予想
4. 中期経営計画2025進捗状況
5. 参考資料

# 国内の木材価格動向と当社プレカットの販売価格（1棟当たり平均）



国内の木材価格動向

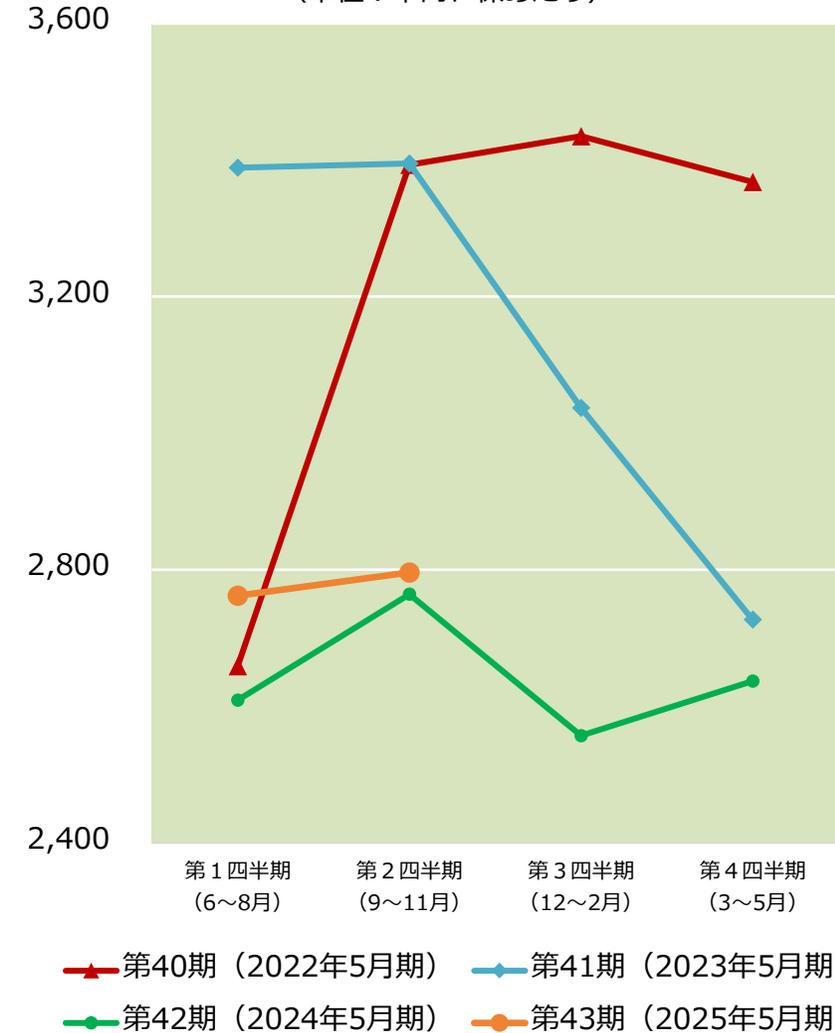
(単位：円、㎡あたり、構造用合板は12mm厚100枚あたり)



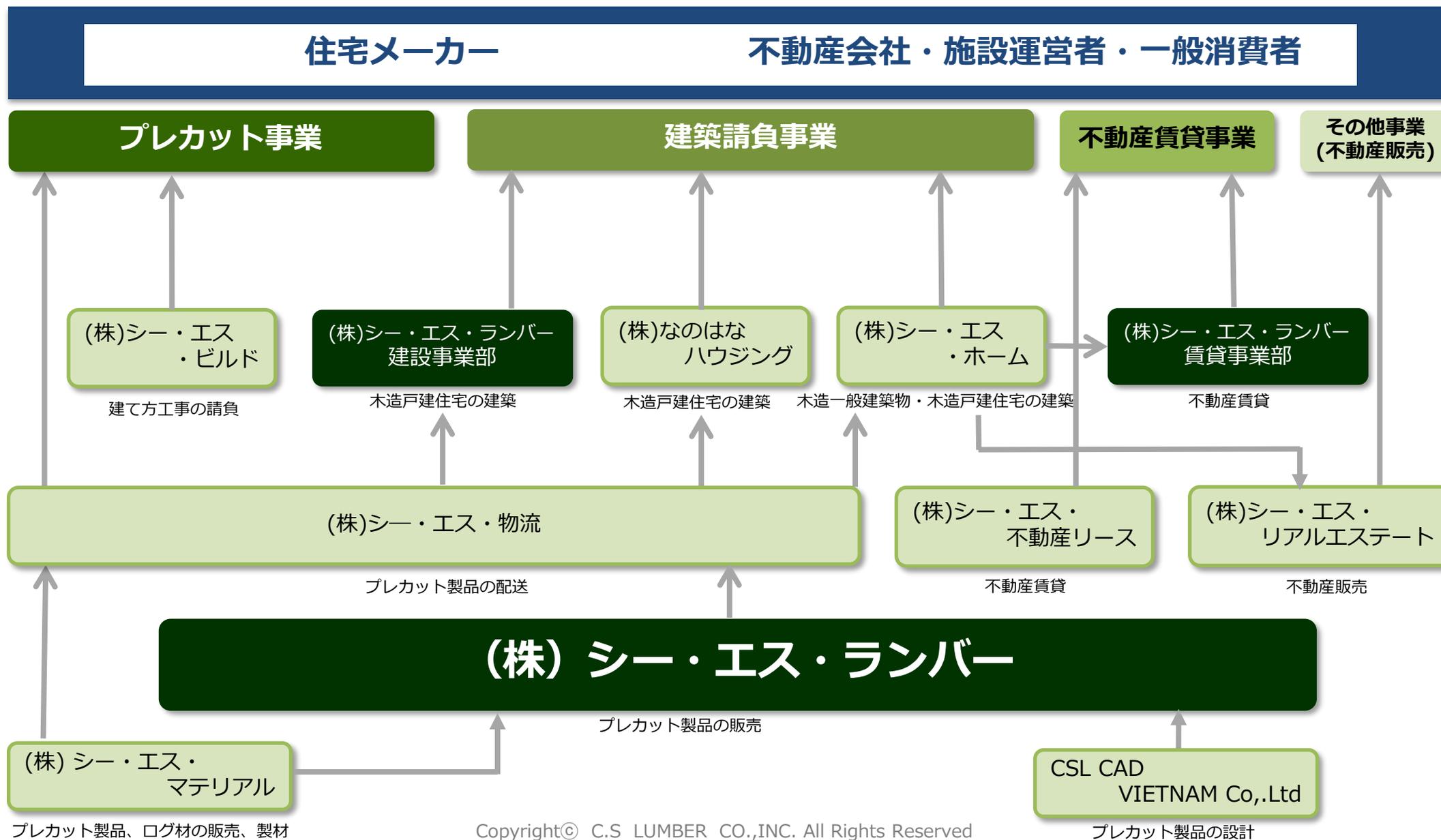
出所：日刊木材新聞

当社プレカットの販売価格（1棟あたり平均）

(単位：千円、棟あたり)



出所：当社決算短信



在来軸組工法における設計 (CAD)、木材のプレカット加工及び販売  
ツーバイフォー工法における設計、木材のプレカット加工、パネルの製造及び販売

## 「木造建築の主要2工法に対応」した加工・販売

### 在来軸組工法 (山武工場)

日本で最も主流の工法  
基礎の上に木の土台を据えて、柱と柱を梁で水平につぎ、  
対角線を筋交いで補触する

**ISO9001 : 2015認定**  
登録証番号 : JQA-QM8720  
登録活動範囲 :  
木造住宅用プレカット材の  
設計、製造

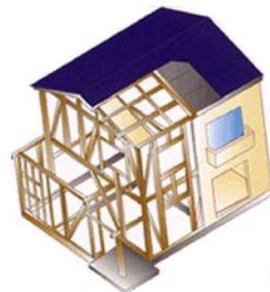


(財)日本住宅・木材技術センター認定

優良木質建材等認証  
CSL高耐久性機械ブ  
レカット部材 (2種-  
ACQ)



認証番号 AQ-099-AI-1



### ツーバイフォー工法 (東金工場)

枠状に組まれたツーバイ材に構造用合板を打ち付けた壁や  
床 (面材) で支える「枠組み」構造  
隙間が大変少なく、気密性・防音性に優れている

**JAS認定工場 (全国木材検査・研究協会)**

認定番号 : JLIRA-A-016  
認定品目 :  
枠組壁工法構造用製材  
認定区分 :  
人工乾燥枠組壁工法構造用製材



### 北欧などからの製品輸入が中心のログハウスプレカット事業に参入 (2019年)



カンントリーテイストのある木造家屋が都市部住宅街にも建ち始めている傾向を捉え、ログハウスメーカーとタイアップしてプレカットを開始  
在来軸組工法、ツーバイフォー工法の技術も必要とされており、親和性大

プレカット事業を軸に、建築請負事業も展開している

### ATAハイブリッドトラス構法のプレカット事業に参入 (2020年)

「無柱大空間を可能にした非住宅・中大規模木造トラス構法」を生んだ株式会社ATA (アタ社) 様の提携プレカット工場となる

商業・工場・スポーツ施設など建物用途は多岐多様、鉄骨から木造への脱炭素の動き



### 木造戸建住宅・木造一般建築物の建築（大型木造施設等）の建築請負

当社のプレカット製品を仕入れて、  
木造住宅・保育所等の大型木造施設を合わせ  
**年間200棟の施工**

事務所兼店舗（東金市）

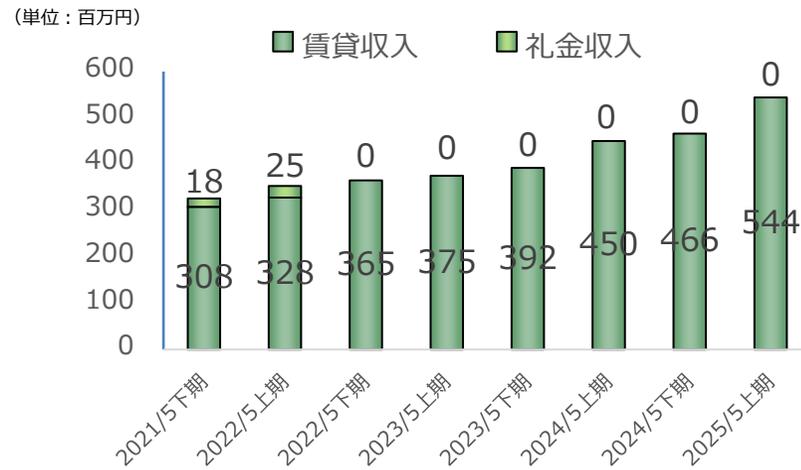


住宅兼施設（花見川区幕張町）



## 長期安定契約を基本方針とした不動産賃貸及び管理

### 賃貸収入・礼金収入の推移



### 共同住宅 (千葉市若葉区)



### 共同住宅 (船橋市新高根)



### 共同住宅 (船橋市前原東)



## 付加価値を創造する木造建築のトータルサービス

- 材木店経営で培った木材（業界）に関する豊富な知識を活かし、木材の仕入れから加工、建築、賃貸・販売までグループ内で行うことで、付加価値を創造

### プレカット事業 歩留まり（端材の削減）の追求力



木材の仕入れ



加工



配送

- 木材の豊富な知識を活かした仕入れ、提案力
- 木造建築の主要2工法へ対応した安定力
- コスト競争力(歩留まり追求力)、供給力、高品質
- 首都圏特化による現場対応力、効率性
- 強い顧客基盤

### 建築請負事業



建築

### 不動産賃貸事業



賃貸・管理

### その他事業（不動産の販売）



住宅用地の販売



住宅販売

ピッキングシステムとプレカット加工ラインにより、**高い歩留まり・生産性を実現**

### ピッキングシステム（邸別ピッキング用自動倉庫）

更なる「歩留まり追求」を目的に導入

⇒ **歩留まりが約10%向上**

- ・コンピュータ制御による在庫管理技術の向上に伴い、必要な木材のより適切な仕入れが可能となり、**材料費を削減**
- ・材料の木材の入庫、出庫の自動化により、**生産性も向上**



### プレカット加工ライン



- ・加工能力向上に加え、従来難しかった複雑な加工も可能になり機械化率が上昇し、**生産性も向上**
- ・製品の**品質安定化**にも貢献

## 全部位 (壁・床・屋根) のパネルを加工し、現場に配送

- ・ 建築現場における工数が大幅に削減される他、高度技術者も不要となり、**付加価値の高い製品**を提供



壁パネル



床パネル



屋根パネル

## 大量かつ安定供給が可能な東金工場

- ・ **広大な敷地 (68,435㎡)** の東金工場に設備を集約し、パネルの**大量生産・保管、安定供給体制**を確保
- ・ 東金インターから約10分の好立地で、**効率化された自社配送**

## 機械化が進んだ生産ライン

- ・ 在来軸組工法で培ったノウハウを活かし、**機械化を推進**  
**複雑な形状の加工においても機械化を進め、高品質、高い生産性を確保**



マルチカットライン  
(木材のカット)



マルチカット製品



パネルシーシングライン  
(自動釘打ちマシン)

## ベトナム子会社でのCAD設計

標準的な建物の設計を行い、**コスト低減**

- クロス (直切り) カットライン 2ライン
- マルチカットライン 2ライン
- パネルシーシングライン 2ライン

人口が集中する首都圏 (1都4県) に絞った生産・営業拠点



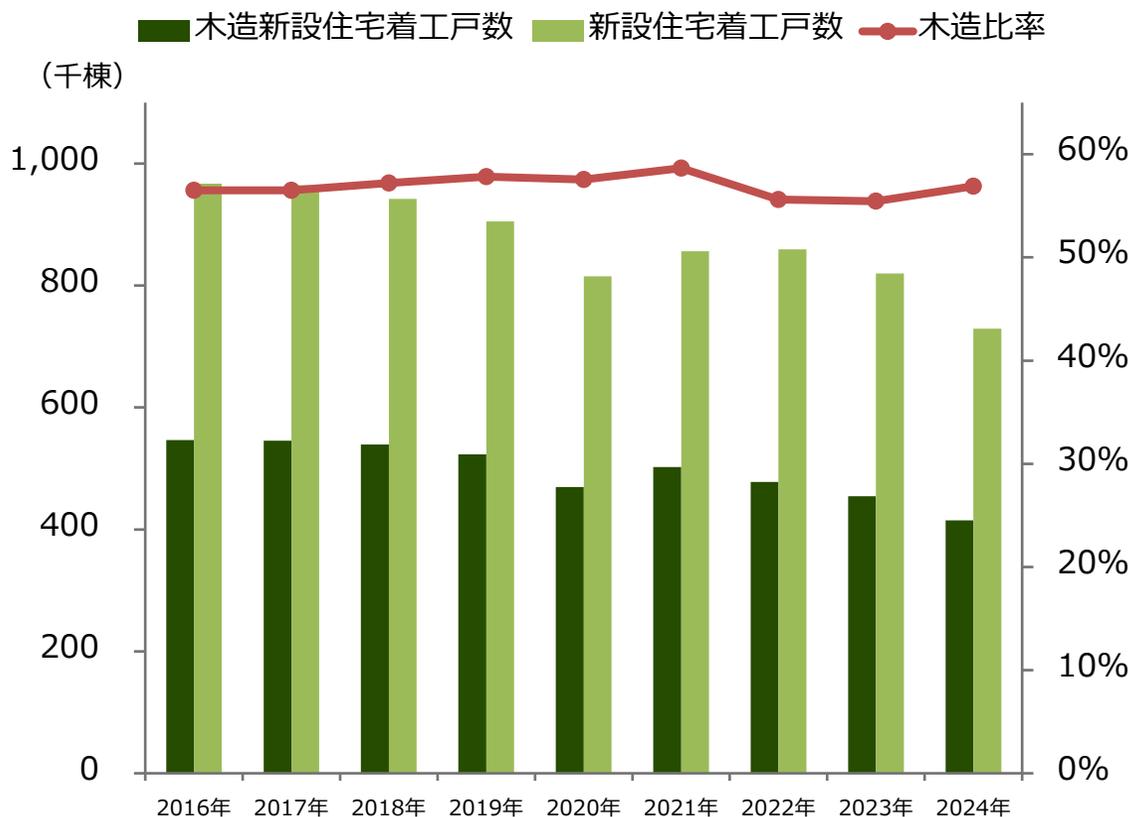
展開エリアを絞ることにより

- ・お客様のニーズへの迅速な対応 (企画・設計・アフターサービス)
  - ・営業効率
  - ・配送効率
- 生産性向上による  
コスト競争力

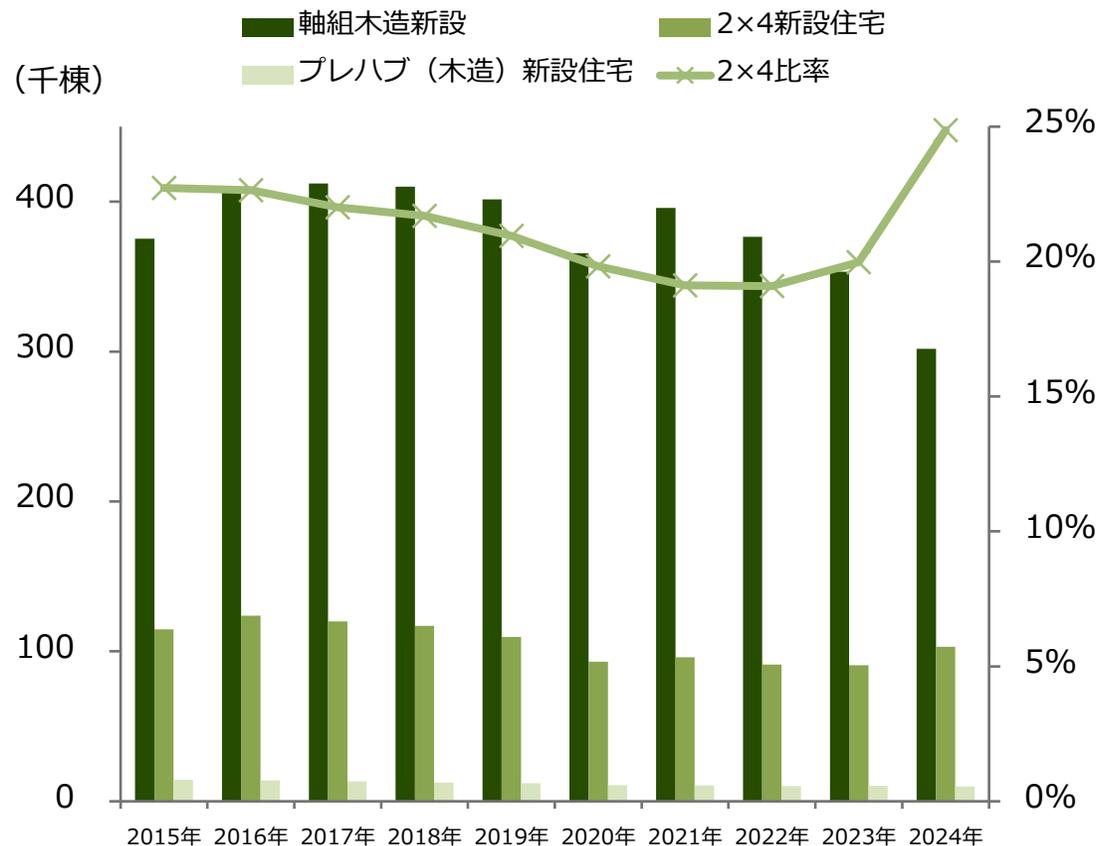


出所：国立社会保障・人口問題研究所「全国人口将来推計」より当社作成

## 新設住宅着工戸数に占める木造新設住宅着工戸数の割合



## 工法別木造新設住宅着工戸数とツーバイフォー比率



出所：国土交通省「建築着工統計調査住宅着工統計」より当社作成(2024年は、1月~11月の実績)



## E

当社グループで展開している事業は、炭素を貯蔵する働きのある木材資源を有効活用していくビジネスモデルとなっており、事業の発展を通じて、地球環境の維持、特に地球温暖化防止に対して、積極的にその役割を果たしてまいります。

木材資源に関する3R活動  
 合法木材の利用推進  
 再生可能エネルギーの利用推進  
 省エネルギー化の促進

## S

プレカット事業、建築請負事業において、ISO9001を取得しており、プレカット製品の設計、製造、建築物の設計、施工などの品質維持・向上を図っております。

少子化・待機児童対策  
 雇用形態による労働条件格差の是正  
 年次有給休暇の取得の促進  
 労働環境の多様性  
 多様な人材の採用  
 労働安全衛生・メンタルヘルス

## G

木材に関する事業を通じて、お客様に満足して頂くとともに、株主・従業員・取引先等、すべてのステークホルダーとの良好な関係の構築による企業価値の向上を目指してまいります。

社外役員によるガバナンス  
 コンプライアンス推進体制  
 リスクマネジメント体制  
 内部通報制度



SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



ESGに関する取り組みの詳細については、ホームページ等を通じて、今後、随時更新・公開してまいります。

◆千葉市SDGs債「ブルーボンド」への投資について◆

当社は、千葉市が発行するブルーボンド（千葉市令和5年度第7回公募公債、以下「本債権」という）に投資したことをお知らせします。

ブルーボンドとは、調達資金の全額が海洋保全等に資するブルー適格プロジェクトに使われる債券です。

投資日：2023年12月26日

◆千葉県ESG債「サステナビリティボンド」への投資について◆

当社は、千葉県令和5年度第7回公募公債（サステナビリティボンド）について賛同し、投資いたしましたことをお知らせします。

サステナビリティボンドは調達資金の全額が環境問題の解決を目指すグリーンプロジェクトや、社会課題の解決を目指すソーシャルプロジェクトの双方に使われる債券です。

投資日：2023年9月8日

◆千葉市SDGs債「サステナビリティボンド」への投資について◆

当社は、千葉市令和5年度第4回公募公債(サステナビリティボンド)について賛同し、投資いたしましたことをお知らせします。

サステナビリティボンドは調達資金の全額が環境問題の解決を目指すグリーンプロジェクトや、社会課題の解決を目指すソーシャルプロジェクトの双方に使われる債券です。

投資日：2023年8月4日

# 株式会社シー・エス・ランバー

【お問い合わせ先】

株式会社シー・エス・ランバー

取締役 経理部長 加賀美 淳

TEL 043-213-8810

FAX 043-213-8819

URL <https://www.c-s-lumber.co.jp>

## <ご案内>

本資料に掲載されている業績見通し、その他今後の予測・戦略等に関わる情報は、資料作成時点での弊社の判断であり、その情報の正確性を保証するものではありません。市場環境等の様々な要因により、今後の業績は本資料の内容と異なるものとなる可能性があります。

また、本資料は投資勧誘を目的としたものではありません。投資に関する決定は、ご利用者自身の判断において行われるようお願い申し上げます。

なお、いかなる目的であれ、本資料を当社の許可なく複製複製等を行わないようお願い申し上げます。